

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立三和中学校	校長	出廣 久司	生徒指導主事	江島 太士
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『自主性を育むボランティア活動』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感 自主的な活動』

- ① 様々なボランティア活動を仕組むことで、生徒が主体的に貢献しようとする意識を高める。
- ② ボランティア活動を通して、生徒が自分で考え、判断し、行動できるような自主的な態度を育てる。
- ③ ボランティア活動を通して、達成感を味わうとともに、「認められる」ことを通して、自己肯定感を高めるとともに、自分たちの学校を自分たちで守り、日々の学校生活をよりよく過ごしていこうとする態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 生徒会を中心とした取組（生徒主体の取組）』

<生徒会で計画している主なボランティア活動>

- 挨拶運動ボランティア…毎週1回早朝挨拶運動を石内門・河内門で行う。
 - 早朝清掃ボランティア…毎週1回早朝清掃を行う
 - 緑化ボランティア…プランターに花を植えて、校内を飾る。卒業式、入学式に飾れるようにする。
 - 地域清掃ボランティア…地域に出て、ゴミ拾いや清掃をする。
 - 校歌ボランティア…朝会するとき、校歌を執行部と一緒に歌う。
 - 体育祭や文化祭などでもボランティアを募る。(例、文化祭における体育館椅子並べ等の会場設営など)
- ※ボランティアカードでの表彰をする。

※前期、後期の学期ごとにボランティアにもっともよく参加したクラスを表彰する。

<その他のボランティア活動>

- トイレ掃除ボランティア…「トイレ掃除に学ぶ会」の講師・保護者とともにトイレ掃除を行う。



あいさつ運動ボランティア



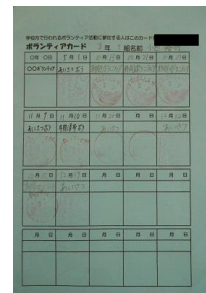
早朝清掃ボランティア



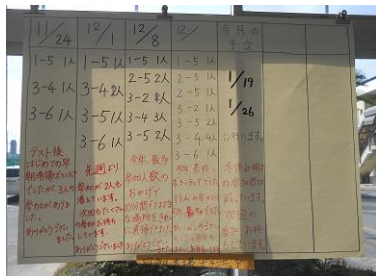
トイレ掃除に学ぶ会



地域清掃ボランティア



ボランティアカード



校内掲示（職員室前廊下）



緑化ボランティア

取組の課題・創意工夫『キーワード 仕組む 評価の工夫 成果の見える化 』

<取組の創意工夫>

①ボランティアカードを活用する。

自分の参加したボランティア活動を記録に残す。自分の足跡と達成感を持たせる。

②ボランティア活動参加の様子を全体に伝える。

参加人数や活動の様子を校内に掲示し、HPIにも写真やコメントを載せる。また、朝会や昼の放送で全校生徒に公表するとともに、生徒の活動により学校が変わってきたこと(掃除を頑張るようになった姿など)を教員が生徒に紹介し、ボランティア活動に参加した生徒が頑張っていることを実感できるようにする。

校内掲示に執行部が参加生徒へのお礼と次回の呼びかけ等のコメントを書き、生徒が生徒にボランティア参加への意識付けをする。

③ 各分掌や部活動と連携し、取組を行う。

あいさつ運動ボランティアにおいて、生徒指導部の登校指導と一緒に進行など、各分掌の取組と活動を相互的、総合的、計画的に組み込んでいくことで各活動がより効果的に行うことができるようにする。

④活動をクラスにつなげる。(ペナント表彰)

ボランティアカードでの表彰だけでなく、ボランティアにもっともよく参加したクラスをペナントで表彰する。各クラスがペナントを目標にすることで個人の取組をクラスの取組に広げ、全校で達成感を持つことができるようにする。

(ペナント10枚で大ペナント1枚)



【ペナント】



【表彰の様子】

<取組の課題>

①点検活動やボランティア活動を生徒に伝えるだけの委員会にならないよう、リーダーを育てる委員会として機能させる指導の工夫が必要である。

②頑張った生徒が認められ、更に頑張りたいと思えるよう、評価活動を工夫していく必要がある。

③生徒の中に「(部活動などで)強制参加させられているのではないか。」という意識を持っている生徒もいる。ボランティア活動の取組の意義や目的を全教職員で共有し、生徒に指導していくとともに、取組を仕組んでいく必要がある。

取組の成果(効果)『キーワード 意識や意欲の向上 あたりまえの活動に 』

①朝会や集会でボランティア参加者や成果を報告することで、三和中学校の成長を生徒と教員が共有することができ、次の活動への意欲につながるとともに、行事間のつながりや分掌間の連携など、その後の生徒指導や分掌の取組に活かすことができるようになった。

②ボランティア活動に自主的に参加する生徒が増加するとともに、部活動や学級での参加が見られるようになり、生徒のボランティアに対する意識の高まりが見られるようになった。

(※10月のボランティア活動参加者が200名を超えた。)

③校内のゴミの減少や挨拶できる生徒が増加し、三和中学校のマナー向上が見られるようになった。

④校内に落ちているゴミを拾ってゴミ箱に捨てる生徒や落し物を拾って届けてくれる生徒が増え、校内の問題や課題に目を向ける生徒が増えた。

⑤決められたボランティアだけでなく、日ごろの学校生活や行事等でボランティアに参加してくれる生徒が増えた。褒められるからではなく『無償で』『あたりまえに』するものだという意識が生徒の姿から見られた。

今後の展開『キーワード 生徒主体の取組へ 』

①これまで教員側からの発案を受け、生徒会が動くという形で取り組んできた。清掃活動以外にも何かできないか、学校外(小学校や地域)でも、できることはないか等、広く生徒からの意見を取り入れることにより、より主体性のある取組にしていく。

他校へのアドバイス『キーワード 組織的な取組 』

①「ボランティア活動をなぜ生徒会が取り組んでいるのか。」という活動の目的を生徒や教職員が確認し、取組を行う。

②ボランティア活動を生徒会の活動として丸投げするのではなく、分掌や部活動、学年、担任等と連携し、組織的に取り組む。

③ボランティア活動を通じて、生徒に「頑張ることによってこんな成果が出た。」「取り組むことによって学校が変わってきた。」ということを実感させ、次への意欲づけをさせる。